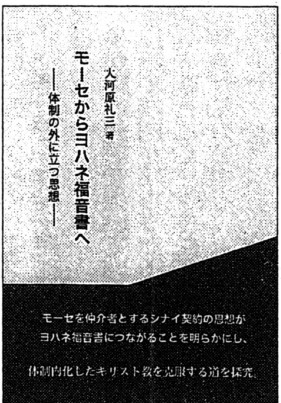


『モーセからヨハネ福音書へ』

フイツソーリユーション発行

星雲社発売

大河原礼三著『モーセから外に立つ思想』がフイツ
らヨハネ福音書へ―体制のーソリユーションより発



行、星雲社より
発売された。B
6判166頁・
1470円。

著者は労働問
題研究家、藤田
若雄氏の聖書研
究会とキリスト
教社会思想研究

会で学び、同氏の提起した「無教会二代目の戦争責任問題」の共同研究に参加。本書は著者自身の戦争体験と深く結びついた聖書研究の方向づけ、キリスト教が戦争や植民地支配を批判できなかったのかという問題、聖書理解を考察と探求をまとめたものであり著者が、昨年2月に刊行した『ヨハネ福音書の特質―旧約から新約へ―』(教友社刊)で扱わなかったヨハネの受難・復活物語について書き、説明不足を補足。また、モーセを仲介者とするシナイ契約からヨハネ福音書への思想の流れを書き記した。

まえがきにて著者は、聖書研究者という立場ではなく自身の生きる指針を求めて聖書を読み、独善的な理解にならないように研究書を参照し、旧約から新約への理解と聖書の社会的背景を考えることを努めていると述べているが、本書は著者が旧約、新約聖書を丁寧に読み解き、また聖書内の言葉を引用、著者が重要とした箇所には傍線を引き理解を深める。さらにシナイ契約については思想理解のために詩編を活用するなどを試みる。

本書では著者の研究につながる内村鑑三の思想についても触れ、最終章では代贖信仰との出会いについても言及、著者の思索の根底が伺える。(写真右上は同書の表紙)